

言語文化研究科(各専攻共通)

2024年度 第Ⅲ期入学試験問題 小論文

(一般入学試験)

次の問題 1 あるいは問題 2 のいずれかの問題を選択して解答しなさい。  
(選択した問題の番号を解答用紙に記載すること。)

問題 1 次の文章を読み、問 1 および問 2 に答えなさい。

著作権法に基づき公開しておりません。

出典：真田信治 著『方言は絶滅するのか 自分のことばを失った日本人』、PHP 研究所、2001 年

問 1. 筆者は下線部(1)「それを受けて、日本語教育界でもようやく方言の状況に対して目が向けられ、方言の扱いに関する本格的な取り組みがはじまった。」と述べているが、これについて筆者の考えを 600 字以内で簡潔に述べなさい。

問 2. 筆者は下線部(2)「日本語学習者が生活の場で必要とする方言の実体は、いずれにしても、決して単純システマチックな伝統方言(いわゆる純粋方言)ではあり得ないはずである。」と述べているが、これについての筆者の考えを 400 字以内で簡潔に述べなさい。

問題2 次の文章を読み、問1および問2に答えなさい。

著作権法に基づき公開しておりません。

出典：小野寺拓也・田野大輔 著『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』、岩波書店、2023年  
※出題の都合上、一部省略しています。

問1. 「ナチスは良いこともした」と主張する人々が増えているのはなぜか。その原因や背景について、著者の記述に沿って400字以内で説明しなさい。

問2. 下線部『歴史知識』と『歴史意識』は分けて考える必要がある」という点について、あなたの考えを600字以内で説明しなさい。